

## 航空自衛隊入間基地見学を実施



C-2輸送機と記念撮影



破壊機救難消防車の説明

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 大谷三穂 1等海佐）は、7月30日、募集対象者等に対して、航空自衛隊入間基地（埼玉県狭山市）見学を実施し、神奈川県内の各募集案内所から20名が参加した。

基地見学は、基地の概要説明から始まり、自動倉庫及び記念館の見学など日頃は見ることでできない航空自衛隊の施設を見学して、参加者のボルテージは徐々に高まっていった。次に、隊員食堂を見学し、参加者からは「大きい」「広い」などと驚きの声が上ががり、昼食に出来立ての『タコライス』を体験喫食すると、見た目と味のクオリティの高さに自然と笑みがこぼれていた。

午後からは、破壊機救難消防車の走行体験や放水体験を実施するとともにC-2輸送機の機内外の見学を行い、実際にコックピットに座って多数のモニターやスイッチ類等を目の当たりにすると参加者の興奮は最高潮に達した。

最後に救難装備品を見学して、今回の基地見学は幕を閉じたが、参加者たちは随行の広報官に、「やっぱり自衛隊がいい」、「多くの体験ができて良い機会となった」などと口々に感想を話してくれた。

神奈川地方協力本部では、「今後も各部隊の支援を得ながら基地見学を積極的に実施し、各自衛隊の魅力を伝えるとともに効果的な募集業務を実施し人的基盤の拡充に努めていきたい」としている。

## 帰郷広報～陸上自衛隊高等工科学校在校生との座談会



参加者と広報官（記念撮影）



盛り上がる座談会

自衛隊神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 明神忠雄 3等海佐）は、8月1日（木）、厚木募集案内所において、陸上自衛隊高等工科学校在校生2名の支援を受け、同校受験を検討中の中学生及びその保護者に対し、帰郷広報として座談会を実施した。

座談会は全般説明の後、高等工科学校在校生の自己紹介から始まり、オープンスクール等では聞くことができなかった現在の生活や受験対策等、幅広い範囲について質疑応答が行われた。当初は互いに緊張した様子で、一般的な生活面や授業内容に関する質疑が主であったが、受験を検討中の保護者からの「大変じゃない」との一言に対して、「大変なこともあるが楽しい」との在校生の返答から一気に座談会は盛り上がり、「お金はどうしているの」「親との連絡はどれくらいしているの」といった、我が子の将来を見据えた保護者目線の質問が多数あった。また、在校生から「自宅への連絡は公衆電話を使用している」といった話になると保護者は驚きを隠せず、更に座談会は盛り上がり、予定の時間があっという間に過ぎていった。担当広報官も久しぶりに会った在校生と近況を話し合うなど、厚木募集案内所内は、今年度一番の賑わいとなった。最後には、高等工科学校の学生らしい敬礼と挨拶を受け、担当広報官は成長した姿に感銘を受けるとともに自己の任務の重要性和「やりがい」を改めて感じる一日となった。

厚木募集案内所は、「今後も自衛隊の理解促進、人的基盤の確立を図るため、創意工夫を凝らした募集広報を実施していく」としている。